

●発行／(公社)秋田県診療放射線技師会 〒010-1106 秋田市太平山谷字中山谷247-32 TEL・FAX(018)838-3231

●発行責任者／豊嶋 英仁 ホームページ <http://www.aart.jp/> AART E-mail:akita@aart.jp

巻頭言

2020 夏

(公社)秋田県診療放射線技師会 会長 豊嶋 英仁

このたび、第80回定時総会において理事に選任いただき、会長に就任致しました。

今回の役員改選では、新監事2名ならびに新理事9名を向かい入れ、総勢21名の役員をもって秋田県診療放射線技師会の運営・発展に全力を尽くしてまいります。

新型コロナウイルス(COVID-19)感染防止のため、第80回定時総会を縮小開催できたものの、令和2年度学術大会・学術講演会等は中止になりました。今後もワクチンが一般化するまではインターネットを利用したりリモート開催や、3密を回避した会場設営形態を進める必要があります。

今年度の我々の業務課題のひとつに、4月からはじまった“診療放射線の安全利用のための指針”の運用を軌道にのせることがあげられます。そのなかでも最新の診断参考レベル(DRLs2020)を指針として自施設の線量管理を実施しなければなりません。県技師会としては、DRLs2020の内容を会員に周知し、実務達成に向けた情報提供を行うリモート開催企画を早い時期に検討しています。また、秋以降は、広い会場を利用し3密を回避し、従来の講習会の開催を検討してまいります。なお、今年度の研修会参加費は、無料化することにしました。

日本診療放射線技師会(JART)では第81回総会において役員改選が行われ、上田 克彦新会長のもとで新執行部が活動を開始しました。上田会

長は就任のごあいさつで、JARTの構想として『対話と協調の時代。信頼される放射線診療の将来のために。』を掲げています。(Network Now2020年7月1日号参照)診療放射線技師の将来に向けた新しい展開に期待が持てます。東北地域からは青森県 船水 憲一会長が地域理事としてJARTの運営に参画することになりました。

相模 司 元会長が春の叙勲(旭日双光章)を県技師会推薦として受賞されました。

相模 司 元会長を紹介しますと、1988年より県技師会理事に選任され、2002年から6年間会長に就任されました。

医療放射線被ばくに関して精通し、講習会等を通して“被ばく線量の最適化とその防護の重要性”の普及活動に努められました。2002年に発刊した記念誌「医療放射線被ばくについて」は長年にわたり会員の参考書になりました。

この受賞は、相模 司 元会長の業績の成果であるとともに、県技師会推薦が叙勲審査にはじめて認められた成果でもありますので記念としてここに紹介させていただきました。

COVID-19の収束が見通せない状況ですが、県技師会は公益社団法人として掲げている目的を果たすために事業を取り組んでまいります。

今後とも会員皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

叙勲(旭日双光章)

[表彰]

相模 司 様



叙勲を頂戴いたして

社会医療法人 明和会 ふき健診クリニック

相模 司

この度は、公益財団法人 秋田県診療放射線技師会の推挙を受け、旭日双光章という大変身に余る重い叙勲を頂戴いたしましてありがとうございました。

まずもって、県技師会 会長はじめ会員の皆様に御礼を申し上げます。秋田県の診療放射線技師で叙勲を受賞した方々は、私の記憶では、秋田大学医学部附属病院の技師長、副技師長さん方が退職後文科省教育分野の功労で頂戴致していて、県技師会推薦の厚労省医療功労の受賞は今だないと思っております。

私が会長の時に、前会長の叙勲ということで、3、4年程継続して秋田県に申請をしましたが、枠がいっぱいということで断念した経緯があります。

この度の叙勲の件では、私のことでもあり余り乗り気ではありませんでしたが、担当の谷口直人さんが一生懸命に頑張っておっしゃっているのに、私から匙を投げだすことは失礼と思い、また、県技師会推薦の突破口になればとの思いもあり、もういいですとは言い出すことができませんでした。

お話が有って数年後に、秋の叙勲枠に、はまりそうとの連絡が谷口さんを通じてあり、その後、この春の叙勲に内閣府に申請をするからといってちよくちよくと技師免許取得日は何時か、厚生労働大臣表彰の受賞日は何時か、前任地である角館総合病院の職歴確認、現任地の明和会の職歴証明の提出等々ということで、谷口さんには事務方への書類の取り寄せ等々大変お世話にな

りました。本当に感謝申し上げます。

私が角館総合病院の在職中で、今は亡くなられた伊藤隆之院長先生に、会長職をお願いされているけど、この片田舎の病院では不便で病院にも多少なりとも迷惑をかけるがどうしたら良いかと相談に行ったときに、あなただけの問題でなく、病院としても職に就くことは、名誉なことでも病院内で支えをしてくれるからと、直ちに事務長を呼んで事務機能の多少は病院で支えをしてくれるとむしろ背中を押してもらったことが、この職能団体の役員を引き受ける出発点となりました。放射線技師としての私を温かく見守っていて下さった亡き院長先生に、この受賞を報告致す代わりに、合掌。本当にありがとうございました。その後、病院、放射線科のスタッフの皆さんに迷惑をお掛けしっぱなしで秋田県放射線技師会会長職、

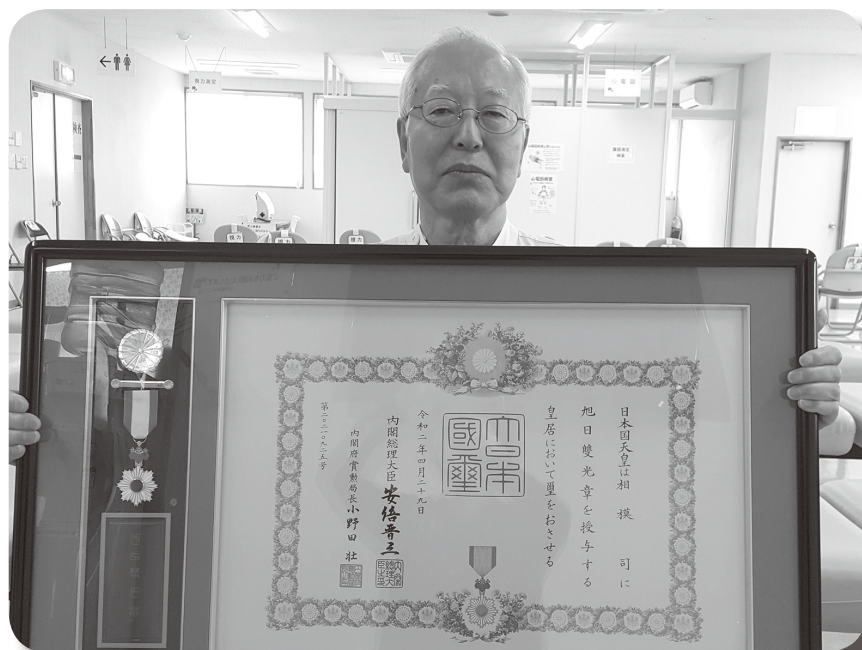
日本放射線技師会理事職、日本放射線技術学会評議員と駆け抜けてきたような気がしております。ここに改めて感謝申し上げます。

現在は、明和会の一員として健診業務を致しております。クリニックの所長はじめスタッフの皆様方、本院の放射線課の皆様方、明和会本部の皆様方の支えがあって、今も診療放射線技師をしております。

私は、診療放射線技師という職業が好きです。またこの事しか知らない出来ない私が、社会と放射線技師としての関わりを持つことが出来ますことに改めて感謝申し上げます。

つくづく、人との縁が糸をつぐむ様に繋がって、今があるものと思っております。

本当にありがとうございました。感謝、感謝です。



功労賞の表彰

[表彰]

佐藤親生様	岩根敦様
吉田桃子様	鎌田伸也様
小南衛様	高谷健太様
湯瀬幸訓様	加藤大樹様
北秋田市民病院様	



功労賞ありがとうございます

平鹿総合病院 佐藤親生

功労賞を頂きまして誠にありがとうございます。

県理事と県南役員を4年間やらせていただきました。

初めの2年間は皆さんの名前を覚えるのと技師会の仕事を理解するのが精一杯で余力が添え出来なかったかもしれません。3年目からようやく顔と名前が一致し仕事の流れも理解出来微力ながらも頑張っていました。これからと言う時に理事を退いてしまい、大

変申し訳なく思います。

理事になってみて皆さんの仕事の大変さがわかりました。本当にご苦労さまです。

これからは、県一会員として技師会行事に積極的に参加し皆さんと一緒に秋田県放射線技師会をおおいに盛り上げていきたいと思えます。

これからもよろしくお願ひ致します。



功労賞の表彰



秋田県診療放射線技師会理事としての 6年を振り返って

秋田労災病院 岩根 敦

この度は思いがけない功労賞を頂戴いたしまして厚く御礼申し上げます。

これもひとえに数多くの方のご助力ご支援ご指導の賜物と誠に感謝いたしております。

思い返せば6年前、理事を拝命した際は望んで引き受けたわけでもなく、はたして自分に務まるのかという不安と、務まらなかった時はどうしたらいいのかという恐怖でいっぱいでした。

初任期の2年間はお恥ずかしながら仕事を覚えることが精一杯で、様々な場面で諸先輩の足手まといとなっておりました。そのような中でも皆さまより手ほどきを受け、どうにか務め終えた2年間だったと思います。

2期目はある程度理事の職務にも慣れ、支部での事務局の職責もある程度果たすことができ、理事会でも与えられた仕事は全うすることが出来たと思います。

3期目には事業推進委員長を拝命し、皆様よりお力添えをいただき、イベントや研修会などの企画、運営をさせていただきました。その都度、適宜にかなった内容をお届けできるよう心掛けてまいりましたが、本当に多くの方々からお助けいただき感謝の言葉もございません。

現在理事を退任し思うところは、確かに大変だったことは間違いありませんが、得るものの方が多かったと感じております。元々積極的にイベントや研修会には関わらずにいましたが、理事を務めさせていただいて多くの方々との出会い、数年前には考えられないほどの繋がりを持つことができました。これは

自分の財産であり、診療放射線技師の職務だけでなく、私生活においても良い影響をもたらしております。本当に良い経験をさせていただきました。

今後は拝受しました功労賞を励みに、微力ながら技師会のお手伝いさせていただければと思います。

以上、6年間の振り返りとともに御礼の挨拶と代えさせていただきます。

この度は誠にありがとうございました。



功労賞の表彰



技師間交流ノススメ

医療法人徳州会 仙台徳洲会病院 吉田 桃子

この度、秋田県技師会の理事を勤めさせて頂いたという事で功労賞をいただきました。

技師として未熟な自分にとって過大な賞を頂いて恐縮しつつも、豊嶋会長をはじめ秋田県技師会の会員の皆様に厚く御礼申し上げます。

私事ではありますが、長くお世話になりました秋田厚生連を退職し宮城県へ転居いたしました。今春から環境が大きく変わりましたので、近況を報告します。

私が仙台市に転入した3月某日は、奇しくも仙台市でコロナウィルス感染のクラスターが発生した日でした。転職先の仙台市の施設でも多数の感染疑い患者を受け入れていた為、入職してしばらくは右も左も分からないまま嵐の中にいる様な毎日でした。その一方で、脳味噌が凝り固まった我が技師人生に素晴らしい刺激をくれるものだという爽快感も感じています。

17年の技師経験があればどんな事でも対応出来るだろうと考えていました。しかし、どんなに経験年数を重ね、今まで自施設の日常業務をそつなくこなせていても、転職先の装置の違いや扱う検査の種類によっては全く手が出せません。また、医師の要求が変われば、常識と思っていた事もそうではなくなる…転職してみて、自分は経験豊富な技師にはほど遠いと痛感し、現在は初心にかえり頑張っています。

しかしながら、今のこの状況を楽しめているのは、これまで県技師会のイベントや各研究会に参加し、多施設の方々と交流をさせて頂いていたおかげだと殊に思います。多施設

の方々との交流により施設間で“違い”がある事に抵抗がなくなり、新しい事に触れる充実感を感じられました。私がこの度の転職で一番学んだのは、技術者として沢山の引き出しを持ち合わせる事が大切なのだという事でした。

以上のことから、私に「技師間交流」の機会を与えてくださった秋田県技師会の活動に深く感謝をしております。

私は、子育てが苦しい10年間は全く技師会活動には参加していませんでしたし、専門的な分野も持ち合わせていませんでした。しかし秋田県技師会における「技師間交流」の輪は、いつでも温かく迎え入れてくれます。私が仲間と活動している秋田県X線撮影技術読影研究会は、新人からベテランまで広くディスカッション出来る一般撮影の分野で技師同士の交流をする場でもあります。是非ご参加ください。(最後は宣伝！？)

それでは、宮城県より秋田県診療放射線技師会の益々のご発展をお祈り申し上げます。



功労賞の表彰



学術功労賞受賞にあたり

市立秋田総合病院 鎌田 伸也

この度は、栄えある学術功労賞にお選びいただき、誠にありがとうございます。

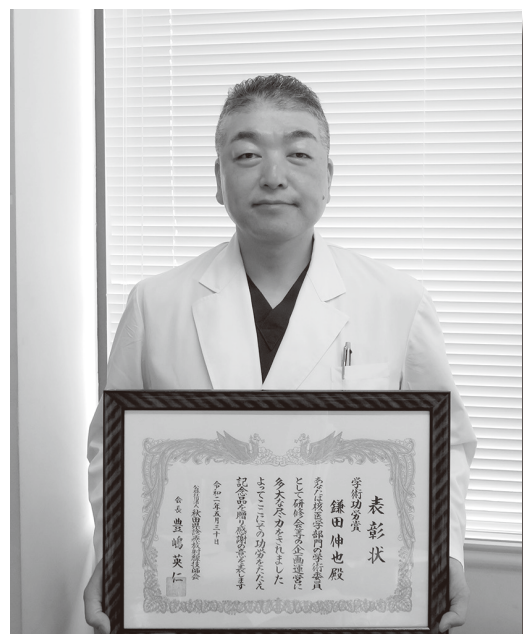
このような栄誉は自分に縁のないものと思っておりましたので、受賞の通知を受けて、唯々驚いております。

この表彰は私にとって身に余る栄誉だけではなく、診療放射線技師として医療に従事した20数年を振り返る良い機会となりました。私の20数年において、職場内で出会った様々な業種の諸氏、秋田県診療放射線技師会を通じて出会った診療放射線技師の方々、数え切れないほど多くの人たちと出会う機会がありました。診療放射線技師新米の当時を思い返せば、まだ20代の若気の至り、勉学などは学生時代で終わりと安堵し、稼いだお金でのんびりと気楽に生活しようなどと、かなり楽観的な考えで医療の業界に入ったように思います。ところが様々な研究会や学術集会等の活動を通して、出会った諸先輩方から絶え間なく生涯学習を続けることの大切さ、そこから生れる新たなる研究、真摯な気持ちで努力を積み重ねることが医療の発展と良質な医療の提供に繋がるという多面的な考え方を目の当たりにしました。本当に感銘を受け自身の考えが大きく変化したのを覚えています。このような影響もあり、診療放射線技師という仕事の素晴らしさ、医療のやりがいを知り、小さなことから営々と取り組むことが出来たと思っております。

昨今の県内外の研究活動などを拝見していると、現在の20代30代の若手の診療放射線技師の方々に感心させられることが多々あります。基礎知識を身につけ発展性もあり、意欲

十分で元気なぎった優秀な人材がたくさん目にすることがあり、若者からも大変刺激を受けております。一説には、人が一生のうちに会う人の数は3万人と言われているようですが、老若男女、多くの人との出会い「人と人の化学反応」の必要性を感じております。これからも秋田県診療放射線技師会を通して互いに切磋琢磨できるよう活動できればと思っております。

最後になりましたが、この度の受賞はこれまで自分を指導し育てていただいた技師会の先輩の皆様と、自分を支えてくれた同僚の皆様のお蔭であると実感しています。しかし、まだ道半ばです。気を引き締めて、今後も、多くの人たちとの絆を大切にして医療発展のために邁進していきたいと思っております。このような栄誉ある賞を受賞させて頂いた秋田県診療放射線技師会の皆様に御礼申し上げます。



功労賞の表彰

奨励賞を受賞して

北秋田市民病院 鈴木 恵美子
(代表 記)

この度は秋田県診療放射線技師会奨励賞を受賞し誠に光栄です。北秋田市民病院全職員、放射線科が一丸となって医療被ばく低減施設認定取得に取り組んできた努力が報われました。

また医療被ばく低減施設認定取得は4月にかづの厚生病院に転勤された湯瀬 直樹副技師長なくては達成できませんでした。この場をお借りして感謝申し上げます。

私たちは『医療被ばく低減施設認定』の取得は、あくまでも手段であって、本当の目的は、患者さんに安心して安全な放射線診療を提供することにあると考えて取り組んできました。

これからはマニュアルの充実や研修会の内容見直し等、の整備に励んでいきます。さらに、傾聴技法を取り入れた被ばく相談や被ばく低減に関する情報を地域に発信していきたいと考えております。

当院に続いて秋田県の医療被ばく低減施設認定数が増えていくよう願っています。



功労賞の表彰



奨励賞受賞にあたって

秋田県立循環器・脳脊髄センター 小南 衛

このたび奨励賞を受賞いたしました。これまで受賞した方々を拝見しますと自分には不相応なものに感じられます。しかし日々の活動を評価していただける機会があるとは思っておらず、望外の喜びとも言えるものです。

支部活動と研究発表を評価していただきました。支部活動は谷口直人支部長はじめ支部の運営委員の皆様、また財務の部門で大阪肇理事に支えていただきながらのものでした。皆様に深謝いたします。研究発表は自分の学会発表の他に研修会等での発表の機会を頂いており、支部と研究発表を含めた活動の一つになろうかと思えます。

技師会に関わる中で学術研修会等での講師を担当する機会を何度か得ました。上司や同僚から学んだことを紹介するような場面が多くなり、話題提供の域を出ないのではないかという不安もありましたが、発表を機に理解が深まり実り多いものであったと感じています。また発表に向けわからないことを調べると会員の皆様の過去の発表や文献に出会うことが多くあり、間接的にも会員の皆様から学び支えられていることを再認識いたしました。

さて私の学術的な活動のはじまりは現職場へ入職した頃(5月くらいでしょうか)のことです。検査後に豊嶋英仁会長よりMRIの健常ボランティアの依頼がありました。撮像方法は当時業務中には見かけなかったもの(腎動脈MRA)で「こうやって(新たな撮像プロトコル)が決まっていくのか」と勉強になった気で帰宅しました。翌日「昨日の自分の画像から抄録書いてみてよ」と学会発表へ誘われ、「こうやって(自分の研究テーマも)決まっていくの

か」と驚いた記憶があります。このように始まった活動が、年に1度は大きな学会で発表したり上述の研修会を依頼されたり…と現在まで続くものとは思わずにありました。独創的でユニークな発想力に欠ける自分には学術的な活動は不相応だとも思うのですが、多くの方に後押ししていただきながら継続しつつ過ごしています。

奨励賞ということで、今後も日々の業務をしながらこのような活動を継続・発展することが期待されている賞と思います。引き続き皆様にご指導いただきながら過ごしていくことと思います、どうかよろしくお願い致します。



功労賞の表彰



奨励賞を受賞して

かつの厚生病院 高谷 健太

この度、昨年日本診療放射線技師学会にて示説発表をしたことにつきまして、秋田県診療放射線技師会より奨励賞を賜りましたことを、大変有り難く思います。

初めて参加する全国規模の学会大会で、且つ自分が演者として参加するとは思っていませんでした(その上、単身での参加だったので緊張感はこの上ないものでした)。この時の得たものは、確実に自分の中で良い経験となりました。

私自身、技師としては今年で8年目となるのですが、その中でも、このような賞を頂ける様になれたのは、先輩方のおかげと言えます。研究発表についてもそうですが、普段の業務でも非常に多くのことを学ばせて貰っていま

す。今の自分があるのは、色々な方のお力があってこそだと思います。しかし、まだまだこれからという部分もありますので、頑張っていきたいと思っております。

因みに件の研究発表は、バリウム製剤についての調査だったのですが、今年より新規の製剤を取り入れて検査を行うことになりました。自分の研究結果が少なからず業務に関係していると思うと感慨深いものがあります。過去にもFPDの画質評価についての研究発表をしたこともありましたが、そちらとはまた違ったものを感じます。

今後、日々の研鑽に励んでいきたいと思っております。



功労賞の表彰



奨励賞をいただき

秋田労災病院 湯瀬 幸訓

この度は、奨励賞という名誉ある賞を頂き、
光栄に思います

今回の受賞にあたりご推薦いただきました
公益社団法人秋田県放射線技師会会長はじめ、
理事の方々に心より御礼申し上げます。自分
自身目立った実績や実力も乏しく、とても恐
縮しております。

今回の受賞の理由ですが、日本職業・災害
医学界学術大会への演題発表を評価されたと
いうことですが、その背景には平成29年県北
支部ナイトセミナー『空間線量分布図を作成
してみよう』へ参加して、どこで活用したらよ
いかわからないまま月日がたちその翌年、整
形外科医から手術時の空間線量分布図を作成
してくれないかと要望があり線量が多い手術
として、脊椎固定術の線量分布図を作成しま
した。被ばくに詳しい他施設の方にアドバイ
スを頂き、手術室のスタッフ、整形外科医に
被ばくについて自分なりに線量分布図の説明
など含め勉強会を開催しました。カラーマッ
プで表示されるためわかりやすいとのことと
した。

最後となりますが、勉強会やセミナーを企
画運営して下さる理事役員の皆様方には感
謝しております。

この度は、本当にありがとうございました。



功労賞の表彰



奨励賞を受賞して

秋田大学医学部附属病院 加藤 大樹

この度は秋田県診療放射線技師会奨励賞を賜り誠にありがとうございます。職場の先輩、後輩、県技師会の皆様方からのご指導やお力添えをいただき、研究を進めてこられたことによる受賞だと思っております。心より御礼申し上げます。

本会に入会してからの約20年を顧みますと、入職当初は日々の業務をこなすことで精いっぱいでしたが、時間を見つけては大学時代の研究テーマであったCT装置の物理評価実験に取り組んできました。少しずつですが実験を重ねたのちに、成果を本会の学術大会で発表させていただくこともできました。発表を通じて院外の会員の皆様と知り合い、ディスカッションすることで様々な考え方に触れることができ、知見を広げられたことは大きな財産となっております。また、これらの縁がきっかけで、秋田CT研究会に携わり、秋田県内の技師の皆様と装置に関する性能や臨床応用について情報交換し、仕事や研究に還元することができ、大変貴重な経験をさせていただいております。

近年ではCT装置の技術革新により、Dual Energyを用いた検査が可能になり、当院ではルーチン検査で使用しています。最新技術をルーチン検査に取り入れることは容易ではなく、過去画像との比較や、画像の質感の変化などによるリスクが伴います。その際、医師が求める画像や、装置の特性を考慮したパラメータの設定が重要となり、技師の力量が試され、責任の重さを実感しています。現在当院では、従来通りの画像に加えて最新技術で得た画像情報も提供しています。1回の検査

で得られる情報量が増し、読影診断の一助になっています。より良い検査を行うために試行錯誤を重ね、患者へフィードバックすることができた時はやりがいを感じ、それまでの過程で議論してきたことは、自分自身を成長させてくれる糧になっていると思います。

最後になりますが、これからも本会の発展に微力ながら協力してまいりたいと思います。

今後とも皆様方のご指導ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。



～ 新理事 挨拶 ～

就任のあいさつ

大館市立総合病院
小 畑 学

この度、理事を務めさせて頂く事となりました大館市立総合病院の小畑と申します。宜しくお願ひ致します。

新型コロナウイルスの影響で、緊急事態宣言の対象地域が全国に拡大されるなど、日本全体が未曾有の危機に直面し先行きが見えない状態が続いております。また、放射線技師会においても活動が制限され学術大会や講習会が、延期や中止となる異例のスタートとなってしまいました。しかし、ここ数年で、診療放射線技師を取り巻く状況が大きく変化し、技師会の役割は重要となっています。その中で、優柔不断な私が、理事という大役が務まるものか甚だ心許なく不安なところであります。

会長・副会長はじめ、各専任理事の方々にご指導を頂き、会員の皆様にお役にたてるよう努めていきたいと思っております。また、県北支部の皆様には、総会やナイトセミナーなど、ご協力を賜りますようお願い致します。

理事就任に向けて

秋田県立循環器・脳脊髄センター
大 村 知 己

この度、理事としてお世話になることになりました大村です。

これまで診療放射線技師として勤務し、二十数年間が経ちました。

様々な経験のなか、近年はこの職種の社会貢献について強く意識するようになりました。

医療社会では、院内での他職種連携、放射線部門の院内における役割を意識して働くこと。一般社会では、災害や医療情勢において診療放射線技師という存在と必要性がクローズアップされる中、信頼される医療職としての地位を高める取り組みを行うこと。

この様な意識を持つ事が、将来も安定した職域であるために必要ではないかと考えております。公益団体としての技師会において、社会貢献を推し進められるように、微力ではありますが関わって参りたいと考えております。どうぞよろしくお願ひいたします。

新理事挨拶

能代厚生医療センター
伊 藤 泰 伸

今年度から理事になりました、能代厚生医療センターの伊藤泰伸と申します。引き受けることについて不安が多かったのですが前任の方々からの励ましによって決心しました。

恥ずかしながら今まであまり積極的に技師会行事に参加していませんでしたがこれを機会に会員の皆様と交流し自分自身の知識を高め業務に活かしていきたいと考えています。微力ではありますが技師会を盛り上げていきたいと思ひます。

今後とも宜しくお願ひ致します。

～ 新理事 挨拶 ～

新理事就任挨拶

JCHO秋田病院

畠山 翔

今期より秋田県診療放射線技師会の理事を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

JCHO秋田病院の畠山翔です。

初めての理事で何もわからないですが、会長をはじめとする理事の皆様の力をお借りしながら、理事の仕事に取り組んでいければと思っております。

ご迷惑おかけすることもあるかもしれませんが、理事を引き受けた以上できることは一生懸命頑張っていきたいと思っております。

新型コロナウイルスによって、総会、学術大会等が中止されていますし、病院でもコロナ対策で大変な時ではありますが、これから2年間ご指導のほどよろしくお願いいたします。

秋田県診療放射線技師会理事になって

秋田労災病院

村田 崇

今期から県理事として頑張っていくことになりました、秋田労災病院中央放射線部の村田 崇です。

今回初めての県理事となりました。県北支部では数回、役員をやらせていただきましたが、事務的な仕事は苦手意識があり、多少の不安を感じています。また、今年は新型コロナウイルスの影響で例年通りに物事が進んでいないことがそう感じさせているのかもしれませんが、豊嶋会長はじめ、常任理事の方々も先行きが不透明な中の舵取りは大変だと思いますが、技師会を盛り上げていきたいという気持ちはあるので、足を引っ張らないように、力の及ぶ限り頑張っていきたいと思っております。

これから2年間よろしくお願いいたします。

理事に就任するにあたって

中通総合病院

池田 英樹

二十数年診療放射線技師として働いて参りましたが、今回技師会の理事を務めさせて頂くことになり、非才の身にこのような大任はことの他重く感じられ、新人技師のように身の引き締まる思いです。

放射線を扱うという専門的な知識を活かし、社会に貢献して行くためには情報共有は重要なファクターと考えます。日常の業務で得られる情報を共有し、社会へ発信していきたい、また業務に還元していくことが今回私に与えられた責務ではないかと感じています。

至らない点が多々あるとは思いますが、諸先輩方のご支援を頂いて責を果たしていく所存です。宜しくお願いいたします。

～ 新理事 挨拶 ～

理事就任ごあいさつ

市立横手病院

細 谷 謙

本年度より理事を就任いたしました市立横手病院の細谷です。これまで2期4年間、県南支部理事として研修会の企画等様々な活動に参加してきました。時には「(アットホームな)県南支部だから大丈夫かな？」的な提案もさせて頂きました。県の理事ということで責任重大な立場ではありますが、診療放射線技師という視点だけでなく他の職種や県民・国民等様々な視点で意見・提案をさせて頂ければと思います。もちろん会員皆様方のご支援がなければ何も成しえないと思います。今後とも何卒ご協力とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

新理事就任の挨拶

平鹿総合病院

鈴 木 明

今年度より秋田県放射線技師会の理事を務めさせて頂くことになりました。

平鹿総合病院の鈴木 明です。

今までは技師会の活動に参加する立場でしたが、今回は技師会の運営をサポートしていく側になりただただ恐縮しております。初めてで至らない点が多々あると思いますが豊嶋会長初め経験豊富な理事の皆さんのお力を借りながら活動していければと思っております。

微力ながら秋田県診療放射線技師会を盛り上げる一助となるよう努力していく所存です。今後とも宜しくお願いいたします。

理事就任挨拶

市立角館総合病院

千 葉 大 志

平素より大変お世話になっております。この度理事の選出を賜りました市立角館総合病院の千葉大志と申します。業務執行理事と放射線安全管理委員長を務めます。

今年は医療法施行規則の改正と共に、診断参考レベル(DRLs)の2020年版の概要が、日本放射線学会総会において公開されました。従来と大きく異なる点として、患者線量の基準が数多く設定されたことが挙げられます。特に線量管理の対象である血管撮影においては多くの細分化された項目が設定され、各施設における適正化への取組みが今後益々重要となってきます。また、透視検査の設定値が盛り込まれたことは大きな変化です。これから新たに設定された線量値を基に様々な検証に取り組む必要があります。

現在のコロナ禍において予断を許さない状況ではありますが、秋田県の被ばく医療の発展のため、まずは今年度皆様のご協力を得ながら進めていきたいと考えておりますので、何卒よろしくお願い致します。

令和元年度マネジメント研修会が開催されました

秋田労災病院 岩根 敦

今年度の当研修会は、2020年4月1日より施行される診療用放射線に係る安全管理体制に関する規定について医療被ばく線量管理をテーマに開催いたしました。

施設報告では自施設の被ばく線量管理の取り組みについて、3施設の管理職の方々よりご報告いただきました。能代山本医師会病院、畠山保雄技師長からはCT装置とAG装置の管理についてご報告いただきました。CT装置はRISからのCSV出力で管理されているとの事でしたが、出力される値が最大値であるため、平均値に変換してDRLs2015との比較、検討、最適化を行っていることをご報告いただきました。管理の本質である最適化までの流れなど大変参考になりました。秋田厚生医療センター、伊藤輝広技師長からは自施設のみならずグループであるJA秋田厚生連での取り組みについてご報告いただきました。指針については厚生連9施設で統一したものを作成し、各施設の実情に合わせて修正・変更を行うこととし、自施設の取り組みとして、運用をスムーズに行うために安全管理副責任者の配置やeラーニングなど活用した研修の検討など行われている状況や全施設統一被ばく線量管理システムの導入を目的とした動きについてご報告いただきました。グループ病院で情報を共有し運用できることは強みであり、今後比較、検討などご報告いただければ秋田県全体にも良い影響をもたらすのではと感じました。市立角館総合病院、加羽馨技師長からはCT装置の線量管理としてオリジナルの線量管理ツールをエクセルで作成中、データベース化を行う予定であることをご報告いただきました。線量管

理システムを簡単に導入できない施設も多いことと思いますが、様々な工夫で業務量を増やさず効果的に管理できると感じました。ご報告後のディスカッションでは正造化と適正化について熱く議論が行われました。短い時間でも活発に意見交換を行っていただきましたので、どのご施設にとっても準備の一助となるのではと感じました。

続いて秋田県平鹿地域振興局福祉環境部(横手保健所)、佐々木和仁先生、医療法施行規則改正に伴う病院立入検査時の確認ポイントについてご講演いただきました。今回の医療法改正の目的から詳しくご説明いただき、医療被ばく管理委員会の設置は必要でしょうか、という問いに対しては、運用上必要と管理者が判断した場合には設置することが望ましいと思われませんが、設置されていなくても立入検査の指摘対象になりませんというお答えをいただき、また線量管理、記録に関しては、初年度ですのでまずは各医療機関でできるところからやってほしい、線量管理、記録に関しては、現在詳しく示されておりません。今後国通知等で具体的方法が示されると思っておりますので、追ってお知らせしたいと思いますとお答えいただいた。他にも様々な質問に対して丁寧にご回答いただき感謝申し上げます。



休憩を挟んで秋田初となりますベンダー2社より自社の新技術をご紹介いただきました。株式会社東陽テクニカからは最適化のための線量管理システム DOSE をご紹介いただき、バイエル薬品株式会社からは線量管理システム Radimetrics をご紹介いただきました。講演だけでなく、各社とも実機を展示していただき、参加者の皆様には休憩時間を利用して実際に触れていただき、皆様興味深くご覧いただきました。

最後に特別講演として国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構、奥田保男先生より「医療被ばくの適正管理 – 管理のあり方、今後の展望 –」と題しましてご講演いただきました。先生は日本の放射線医療に携わるトップランナーでありになり、



今回の法改正の原点や我々診療放射線技師がすべきこと、またこれから変わるトピックスについて、大変興味深いお話をお聞きすることができました。線量の記録、管理とは誰のために行うのか、その本質を考え行動しなければならぬと改めて感じました。また4月を迎えるにあたり戦々恐々としていたところ、日常を明文化することだというお話で少し楽になったような気になりましたが、ただこれをどのように扱うか、我々に問われている大事な点だと思います。ここがゴールではなくスタートだということ肝に銘じ、取り組んでいきたいと思えます。

今回の研修会にはたくさんの方々のご参加をいただきました。少しでもご施設にお持ち帰りいただき今後の業務のご参考にしていただければ幸いです。

第80回

定時社員総会開催報告

市立秋田総合病院 田村博文

令和2年5月30日(土)、公益社団法人秋田県診療放射線技師会研修センターにて、第80回定時社員総会が開催されました。

今年は、新型コロナウイルス感染拡大防止を考慮して、小規模での開催となりました。

例年であれば、総会に先立ち表彰式が行われますが、これも新型コロナウイルス感染拡大防止を考慮して、表彰者の紹介のみとなりました。定刻になり川又渉副会長の開会の辞により、定時社員総会が開会されました。

はじめに、資格審査委員長、社員総会運営委員長が指名され、続いて豊嶋英仁会長より挨拶を頂きました。その後、資格審査委員長より、総社員の過半数の出席(委任状・議決権行使書を含む)を確認し、本会が成立したことが報告されました。

次いで、社員総会運営委員長より、総会運営にかかわる事項が説明され、その後、議場に対し議長の選任方法が諮られました。参加会員より一任の声があり、1名の会員が議長に選任されました。その後、総会役員が指名、承認され、各議案の審議に入りました。

議長の適切な進行で、各議案とも出席者全員賛成・委任状多数にて承認されました。

今年は役員改選の年となっており第7号議案では、理事19名(新理事9名)、監事2名が、賛成多数にて承認されました。

その後、柴田輝雄副会長の閉会の辞にて、定時社員総会は無事終了いたしました。

今年度に入ってから、新型コロナウイルスの影響で学術大会は中止となり、この定時社員総会についても、開催するかどうか、ぎりぎりまで議論がなされました。

今総会は小規模開催とはなりましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止を考慮した中で開催できたことは非常に貴重な経験であり、今後の技師会活動においても、想定外の事態が発生した際の対応等につながっていくと思われまます。

今総会の運営に感染防止対策をしながら携わってくださった皆様、本当にお疲れ様でした。

最後に、今総会において委任状・議決権行使書を提出して頂いた全ての会員の皆様に、深く感謝申し上げます。





令和2年度・3年度 公益社団法人 秋田県診療放射線技師会 役員

会 長	豊 嶋 英 仁	秋田県立循環器・脳脊髄センター
副会長	柴 田 輝 雄	大曲中通病院
副会長	川 又 涉	かづの厚生病院
理 事	阿 部 幸 成	秋田厚生医療センター
理 事	田 村 博 文	市立秋田総合病院
理 事	小 林 林太郎	由利組合総合病院
理 事	小 畑 学	大館市立総合病院
理 事	大 村 知 己	秋田県立循環器・脳脊髄センター
理 事	高 橋 麻冴子	雄勝中央病院
理 事	伊 藤 泰 伸	能代厚生医療センター
理 事	畠 山 翔	JCHO秋田病院
理 事	村 田 崇	秋田労災病院
理 事	池 田 英 樹	中通総合病院
理 事	谷 口 直 人	秋田大学医学部附属病院
理 事	篠 原 俊 晴	秋田大学医学部附属病院
理 事	佐々木 肇	市立大森病院
理 事	鈴 木 明	平鹿総合病院
理 事	千 葉 大 志	市立角館総合病院
理 事	細 谷 謙	市立横手病院
監 事	大 阪 肇	秋田県立リハビリテーション・精神医療センター
監 事	田 口 浩	秋田赤十字病院



会 員 情 報

【会員数】

358名(正会員355名、名誉会員3名)賛助会員:24社

(2020年7月10日現在)

※お届け事項に変更がありましたら、日本診療放射線技師会のホームページより『JART 情報システム』にログインして、お手続きをお願いします。

お知らせ

～ JART (日本診療放射線技師会) 30・50年永年勤続表彰のご案内 ～

ART表彰規定において会員の永年(30・50年)勤続を表彰する制度があります。
例年11月にAARTより推薦し、来年春に表彰が決定いたします。

表彰要件は、

(1) 勤続 30 年表彰：

30年以上診療放射線技師関連業務に従事し、本会入会后15年以上会費を完納した会員。

(今年度新たに対象となる会員は、免許登録が1990 (H2)年度の会員)

(2) 勤続 50 年表彰：

勤続 30 年表彰を受賞し、更に会員として20年以上在籍し、会費を完納した会員。

表彰式は、次年度日本診療放射線技師学術大会において行われます。

AARTからの推薦が受理された会員には、後ほど御案内をしております。

表彰を希望される会員は、JARTホームページのトップ画面／「各種様式」／「表彰推薦に必要な書類」より「表彰規定 様式5」をダウンロードして履歴を御記入の上、下記宛まで郵送願います。

なお、表彰式当日出席できない方には、賞状と記念品が郵送されます。また、過去に対象となりながらも表彰を希望されなかった方で、要件を満たす方は推薦の対象となりますので、御一報下さいますようお願いいたします。

永年勤続表彰に関するお問い合わせ、履歴の郵送先：

<秋田県診療放射線技師会 表彰担当>

〒010-8543秋田市広面字蓮沼44-2

秋田大学医学部附属病院 中央放射線部 谷口 直人

Tel : 018-884-6305

E-mail : tani-rt@gipc.akita-u.ac.jp

編 集 後 記

■ 世界で猛威を振るっている“COVID-19”。感染拡大防止のために“新しい生活様式”なるものが提唱されて、人と人との距離間をととても意識するようになりました。東日本大震災後には人との“絆”の大切さが盛んに叫ばれましたが、ソーシャルディスタンスを強く意識しなければならなくなった生活で“絆”が希薄にならないか危惧しています。一時、様々な研修会や講習会の開催が中止されましたが、WEBを利用した催し物が数々行われるようになりました。各種団体の学会開催形式も大きく変化していくのではないかと思います。これからは秋田県診療放射線技師会でもリモートを利用した研修会が積極的に行われていくことになるのではないのでしょうか。

皆様からの御協力により、情報誌LATITUDE40Nの通巻68号を発行することが出来ました。原稿をお寄せいただいた皆様、日々お忙しいところありがとうございました。(小)